

木の図書館スタッフが選ぶ1冊！！

ウ

『狐笛のかなた』 上橋菜穂子/著 理論社
2003年

野を駆ける姿が野火のように見えると主につけられた名前が「野火」、赤毛並みの子狐。里のはずれに祖母と二人ひっそりと住む少女「小夜」。そして、里人出入り禁止の奇妙な館に住むおかしな少年。この三人の出会いから物語は始まります。おとぎ話のような、冒険譚？それともラブストーリー？…頭の奥で「謎」って感じながら展開の速さについていき「あっと」という間に終わりが来てしまう感じです。

P.N. のはーら



+

『くちびるに歌を』中田永一/著 小学館 2011年

舞台は長崎県五島列島の中学校合唱部。産休に入った顧問の先生に代わり美しい柏木先生が来て、女子だけだった部活に男子が多数入部します。夏のNコン(NHK合唱コンクール)に向け、男女が対立しながら、またそれぞれの悩みを抱えながら、少しずつ心を一つにしていきます。清々しい、青春ストーリー！

物語でNコン課題曲となっている「手紙～拝啓十五の君へ～」(アンジェラ・アキさんの歌)を聞きながら読むのもいいですね♪

P.N. のりのり



編集後記

もくほん！2014spring、いかがでしたか？

YA新着情報やYAコーナーの本棚にはまだまだたくさんのおすすめ本があります！ということを知っていただけましたか？

これを機に、是非YAコーナーに来て、見て、選んで、読んで、楽しんでくださいね♪
そして、また何度も借りにきて、YAノートにおススメ本を書き込んでください！

それでは、次回のもくほん！もお楽しみに！！